

大阪・関西万博三重県ブース（仮称）出展基本計画

令和5年3月
三重県雇用経済部

目次

はじめに	1
1. 2025年日本国際博覧会の概要	1
●名称	
●テーマ	
●サブテーマ	
●コンセプト	
●会場	
●開催期間	
●来場者想定	
2. 関西パビリオンの概要	1
(1) 関西パビリオンの基本コンセプト	1
●出展参加主体	
●出展参加府県	
●出展参加のテーマ	
●出展参加でめざすもの	
●基本構成	
(2) 建築計画の概要	2
●建物のコンセプト	
●特徴	
●面積	
●内部レイアウトイメージ	
3. 三重県ブース（仮称）の概要	3
(1) 三重県ブース（仮称）の基本コンセプト	3
●出展の目的	
●出展参加でめざすもの	
●出展参加のテーマ	
●テーマ展開の方針	
●SDG s の取組	
●オール三重での出展連携	
●成果目標	
●関西広域連合との連携	
●他のパビリオンとの連携	
(2) 展示計画の概要	5
●面積	
●展示の基本方針	
●展示構成	
●運営計画	
●ブースの周知・広報	
(3) 万博会場での取組	9
●WEBパビリオンの方針と展開	
●催事計画	
4. 万博の好機を生かす取組	10
●観光・プロモーションの方向性	
●レガシーの活用	
5. 万博関連事業全体の推進	11
●概算事業費	
●全体スケジュール	
●推進体制	

はじめに

「大阪・関西万博三重県ブース（仮称）出展基本計画」は2025年日本国際博覧会における三重県ブースの具体的な出展コンセプト、展示展開、運営、催事などを検討し、出展に向けた基本的な方針を示すものです。

今後、2025年日本国際博覧会全体や関西パビリオンの計画や規則などを遵守し対応しながら、オール三重で出展するブースとして、実施に向けて取組を進めていきます。

1. 2025年日本国際博覧会の概要

- 名称 2025年日本国際博覧会（以下、「大阪・関西万博」という）
- テーマ いのち輝く未来社会のデザイン(Designing Future Society for Our Lives)
- サブテーマ Saving Lives(いのちを救う)
Empowering Lives(いのちに力を与える)
Connecting Lives (いのちをつなぐ)
- コンセプト People's Living Lab(未来社会の実験場)
- 会場 大阪市此花区夢洲（大阪市臨海部）
- 開催期間 2025年4月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）184日間
- 来場者想定 約2,820万人

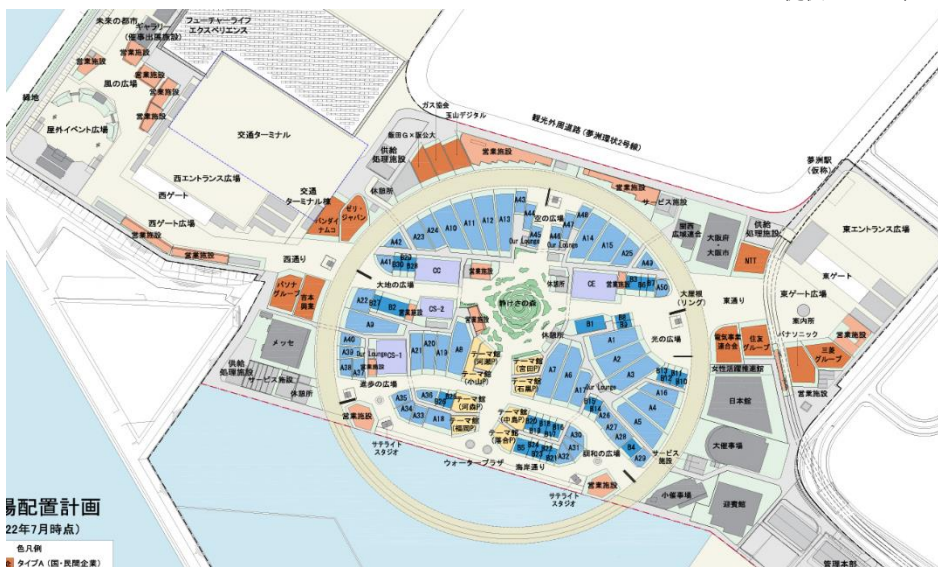
2. 関西パビリオンの概要

(1) 関西パビリオンの基本コンセプト

- 出展参加主体 関西広域連合
- 出展参加府県 滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県
- 出展参加のテーマ いのち輝く関西悠久の歴史と現在
- 出展参加でめざすもの
 - ・ 地域に息づく「いのち」と未来へと続く「いのち」の発信
関西各府県の生活環境、産業立地、観光・文化等の魅力を、各府県ごとの切り口で提示し、日本で最も長く息づき、根付いてきた地域の「いのち」の姿と、未来へと続く「いのち」の姿を日本・世界の人々に伝える。
 - ・ 関西各地へのゲートウェイ
来場者に関西地域での暮らし・仕事・楽しみを示すとともに、この場から関西各地への視察・観光旅行へダイレクトに誘導することをめざす。

関西パビリオンの位置

提供：2025年日本国際博覧会協会



●基本構成

- ・ 関西全体を表現する展示スペース
 関西パビリオンのエントランスとして、関西各府県を一体的に表現する展示スペース
- ・ 出展参加府県による独自展示スペース
 出展参加府県が来館者に訴求したいポイントに沿い、参加府県それぞれが趣向を凝らした展示を展開するスペース
- ・ WEBパビリオン
 WEB上でもパビリオンを展開し、リアルのパビリオンとも共鳴させ、可変自在な展示を展開する。

(2) 建築計画の概要

●建物のコンセプト

笑顔あふれる輝く未来へ、いつも楽しい、にぎわいのパビリオン

●特徴

- ・ 灯籠をイメージした六角形のパビリオン
- ・ 最高12mの高さを活かした展示
- ・ 膜をスクリーンとしたプロジェクションマッピング
- ・ いにしえより受け継がれてきた切り絵で“関西”を表現
- ・ 付属催事スペースでのイベント開催
- ・ 軽量素材・省資源化による環境負荷及びコストの低減

●面積 約1,700㎡



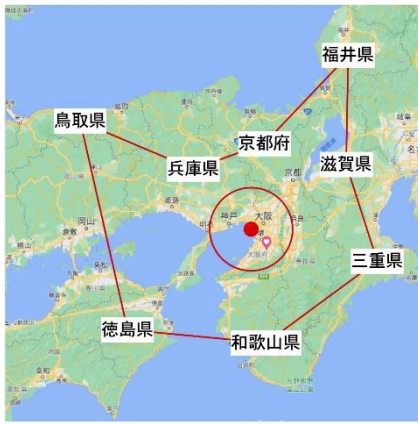
関西パビリオンの外観・内観のイメージ

提供：関西広域連合

●内部レイアウトイメージ

- ・ 関西パビリオンに参加する府県は、大阪・関西万博の開催地を中心として取り囲むように立地
- ・ 参加府県の地理や隣接関係を来館者が自然と感じとれるように、展示スペース内の並びを地理的配置で表現
- ・ 中心で関西全体を表現する展示を展開することで関西を一体的にアピール

関西パビリオン内の府県配置イメージ



提供：関西広域連合

3. 三重県ブース（仮称）の概要

(1) 三重県ブース（仮称）の基本コンセプト

●出展の目的

三重県では、2023年にG7三重・伊勢島交通大臣会合が開催され、その後、大阪・関西万博、リニア中央新幹線東京名古屋間開通と大きなイベントが続き、さらに、次期遷宮など、様々な取組が始まり、三重県にとってチャンスが広がります。

このことから、大阪・関西万博の好機を着実に生かし、三重県への来訪につなげることを目的とします。

●出展参加でめざすもの

三重県は、名古屋、大阪の両大都市圏にまたがり、東西文化の交わるところに位置し、南北に長く多彩な県土、豊かな自然の恵みを有しています。縦横に発達した街道交通の要衝として県内各地がにぎわい、人、情報、文化等の交流の場が形成され、それぞれの地に住む人びとが先人から受け継いだ自然、歴史、文化等を育てている、多様性に満ちた地域です。

三重県は海川山野の自然に恵まれ、食に恵まれ、心身共に満たされる場所「美し国」であり、その魅力を余すことなく伝えられるよう三重県ブースにおいて、来場者が心おどり、三重県の魅力を知り、その魅力に魅了されるような体験を提供することで、今後三重県への来訪につながるようなブースをめざします。

●出展参加のテーマ

日本のこころの原点 ～美し国みえへとつづく時を超えた物語～

三重県では、古くから、多様な人々が暮らし、美しい自然や歴史・文化を大切にしながら、知恵と工夫で常に新しいものを生み出し、発展してきました。

これは、三重県のみならず、いわば「日本のこころの原点」であると言え、それを象徴する存在が、千年以上も紡がれてきた伊勢神宮や熊野古道伊勢路などです。

この「こころの原点」の魅力を、過去から現代、そして未来へとつづく物語として、三重県の豊かな自然や食など「美し国みえ」の魅力とともに、エンタテインメント型の空間演出で体感・体験していただきたい、そんな思いからこのテーマは生まれました。

●テーマ展開の方針

世界に向けて三重県オンリーワンの魅力を物語性豊かな体感・体験型エンタテインメント空間として発信

- ・「日本のこころの原点」としての魅力为核心としたメッセージを発信
三重県が誇る日本の聖地「伊勢神宮」や「熊野古道伊勢路」などを核として、三重県の魅力の基盤にある文化的価値を発信し、来場者を三重県への誘客
- ・三重県の美しい自然を舞台とした千数百年の物語を体感
「いのち輝く関西悠久の歴史と現在」を発信する関西パビリオンとのテーマ連動を図り、パビリオンとしての発信力向上と三重県ブースへ誘引
- ・世界の人々の共感を呼ぶイメージ豊かなエンタテインメント空間
世界からの来場者を集客し、「いのち輝く未来社会のデザイン」を発信する大阪・関西万博にふさわしく、普遍的で言語を超えたイメージ豊かな体感空間を創出
- ・オール三重の取組成果を発信し、未来につなぐ
三重県、市町、事業者、県民が連携し、「オール三重」で創るブースを実現
その成果をレガシーとして未来に活かす。

●SDGsの取組

大阪・関西万博の開催テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」には、国連が掲げ2030年の「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成にとどまらず+**beyond**（2030年より先）への飛躍の機会となる期待が込められています。

三重県では、2020年に内閣府から「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、「三重県SDGs未来都市計画」を策定し、実現に向けた取組を進めています。

三重県において、千年以上紡がれてきた歴史と伝統文化は、SDGsがめざすサステナブルそのものであり、「日本のこころの原点 ～美し国みえへとつづく時を超えた物語～」をテーマとして、三重県の魅力を発信することで、三重に息づく先導的なSDGsの取組を発信していきます。

また、内装については、三重県産材を積極的に使用するとともに、展示についても環境負荷軽減を考え、配慮した展示を計画します。リデュース・リユース・リサイクルに努めるものとしします。



●オール三重での出展連携

来場者に三重県魅力を伝えるためには、県内市町、団体、事業者、県民の参画や連携が必要です。

そのため、三重県ブースを舞台として、市町等が参画できる仕組みや展示を検討し、オール三重で来場者へ最上のおもてなしを提供します。

●成果目標

来場者数 35万人

※過去の事例や法令等を踏まえた係数に面積等を乗じて算出していることから、今後策定される関西パビリオンの運営計画により見直す場合があります。

※令和5年度の設計業務において、具体的な展示・取組と併せて新たな成果目標を検討します。

●関西広域連合との連携

三重県ブースは、関西パビリオンの1区画に出展するため、関西広域連合及び参加府県とともに、この大阪・関西万博を盛り上げていくために協力・連携を図っていきます。

パビリオン全体を統括する関西広域連合と連携・確認を行い、展示計画や運営、催事計画を進行していきます。

●他のパビリオンとの連携

幅広く三重県をプロモーションするために、三重県ブースだけでなく、他のパビリオンと連携した三重県プロモーションの展開を検討していきます。

(2) 展示計画の概要

●面積 160㎡ (予定)

●展示の基本方針

風光明媚なリアス式海岸や、伊勢海老、松阪牛に代表される食などの三重県が世界に誇るオンリーワンの魅力と出会い、体験や映像などを通じて、三重県の多様な魅力を知り、万博会場から実際の三重へ旅立つストーリーでブースを構成します。

国内外からの来場者に対しておもてなしをするため、誰にでも分かりやすい展示となるよう工夫します。

展示は非言語で理解できるように映像を用い、ナビゲーションデスクや県産品のPRなどは、最新の機器対応をはじめ、接客対応でもおもてなしを実施します。

●展示構成

三重県が世界に誇るオンリーワンの魅力と出会い、三重県の多様な魅力を知り、三重県へ旅立つストーリーでブースを構成します。

【ブース・ゾーニングの考え方】

1. 出会う



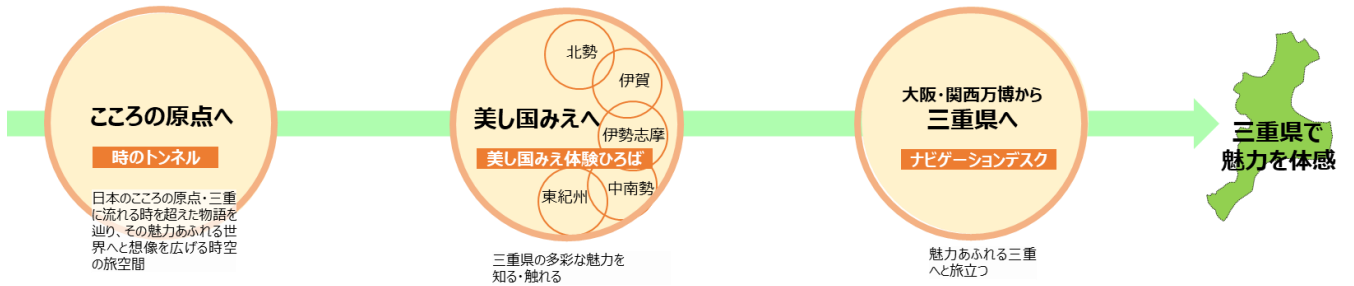
2. 知る



3. 旅立つ



4. 三重県で



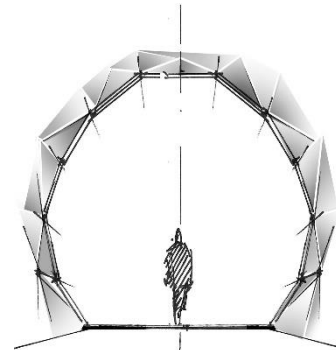
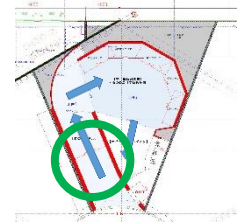
1. 出会う

時のトンネル

幻想的なトンネルを抜け、美し国「みえ」へ

【ブース展開の考え方】

- 万博会場に居ながら「伊勢神宮」や「熊野古道伊勢路」から広がる三重県の千年を超える歴史物語を体感できる幻想的なトンネル
- 投射された映像を多角形に設置したミラーに反射させ、無限に広がる映像の世界を創り、立体的な音響と光やスモークなどの演出で、非日常を体験
- 来場者の動きをセンシングして演出を変化させ、来場者自身が時の物語の世界を歩いている感覚を創出



【時のトンネルイメージ】

【コンテンツ展開イメージ】

- 三重県が世界に誇る観光コンテンツを余すことなく発信

※1 写真提供 (公社) 三重県観光連盟
※2 写真提供 神宮司庁



美しき自然※1



日本の聖地※2



受け継がれる祈り※1



煌々と灯る灯※1



美しき城※1



日本一の祭り※1



忍びの国



世界の舞台※1



美味し国～海～※1



美味し国～陸～※1



輝く宝石※1



夜空に咲く花々

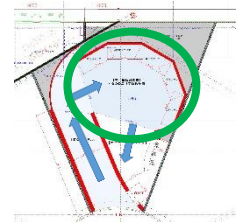
2.知る

美し国みえ体験ひろば

出会う、触れる、美し国「みえ」

【ブース展開の考え方】

- 県内5エリア別に観光プロモーション展示を展開
 - ・ 大型モニターを全面に展開して、観光プロモーション映像を発信
 - ・ 観光コンテンツ紹介
 - ・ 特産品・特産展示（実物展示・販売※）※関西パビリオン規則と調整
- 中央のデモ&体験スペースにおいて、「三重県ならではの体験コンテンツ」を発信し、来場者にリアルな訴求
- 県内市町、団体、事業者と連携した「オール三重」での魅力発信



体験コンテンツの例（検討中）

- ・ 忍者や海女のデモンストレーション
- ・ 伝統工芸品の職人による体験・実演
- ・ 三重県でしか見られない「三重県の逸品」期間限定の出張展示



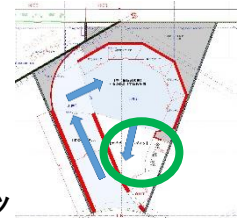
3.旅立つ

ナビゲーションデスク

あなただけのみえ旅を

【ブース展開の考え方】

- 来場者一人ひとりの興味関心に応じた情報を提供するとともに、三重県への来訪のきっかけとなる取組を実施。
 - ① おすすめ旅情報の提供【観光地・食・祭り・イベント】
マップ上のキーワードを押したり、ブースで見たものなど希望にマッチした情報がマップ上のQRコードを読み取ると自分のスマホに情報を取得できる。
 - ② 体験コンテンツ紹介
県内5つのエリアごとのテーマ・キーワード別に体験コンテンツを紹介
 - ③ おすすめ周遊ツアー紹介
三重県の新たな魅力を再発見できるような県内周遊ツアーを紹介
- ICTを活用した情報提供とともに、コンシェルジュによる接客対応により来場者の多様なニーズに対応



●運営計画

・運営方針

関西パビリオンにおける基本的な運営（案内・予約管理など）は関西広域連合が担いますが、展示の説明や機器の運用は府県が担います。

三重県ブースのテーマである「美し国」を体現できるようにおもてなしの心で、来場者に満足いただけるよう、関西広域連合と連携して運営を行います。

具体的な運営計画については、関西広域連合や万博協会とも調整の上、検討します。

・運営体制

すべての人に楽しんでいただくとともに、展示により三重県の魅力を知っていただける体制構築及び運営をめざします。

関西パビリオンの運営レギュレーションの把握と調整を行い、三重県ブースの展示構成に沿ったものとするとともに、展示内容や会期中の催事も考慮し、柔軟に対応できる計画を策定します。

・スタッフ方針

テクノロジーの活用も検討し、効果的かつ合理的で費用対効果が高い運営をめざします。

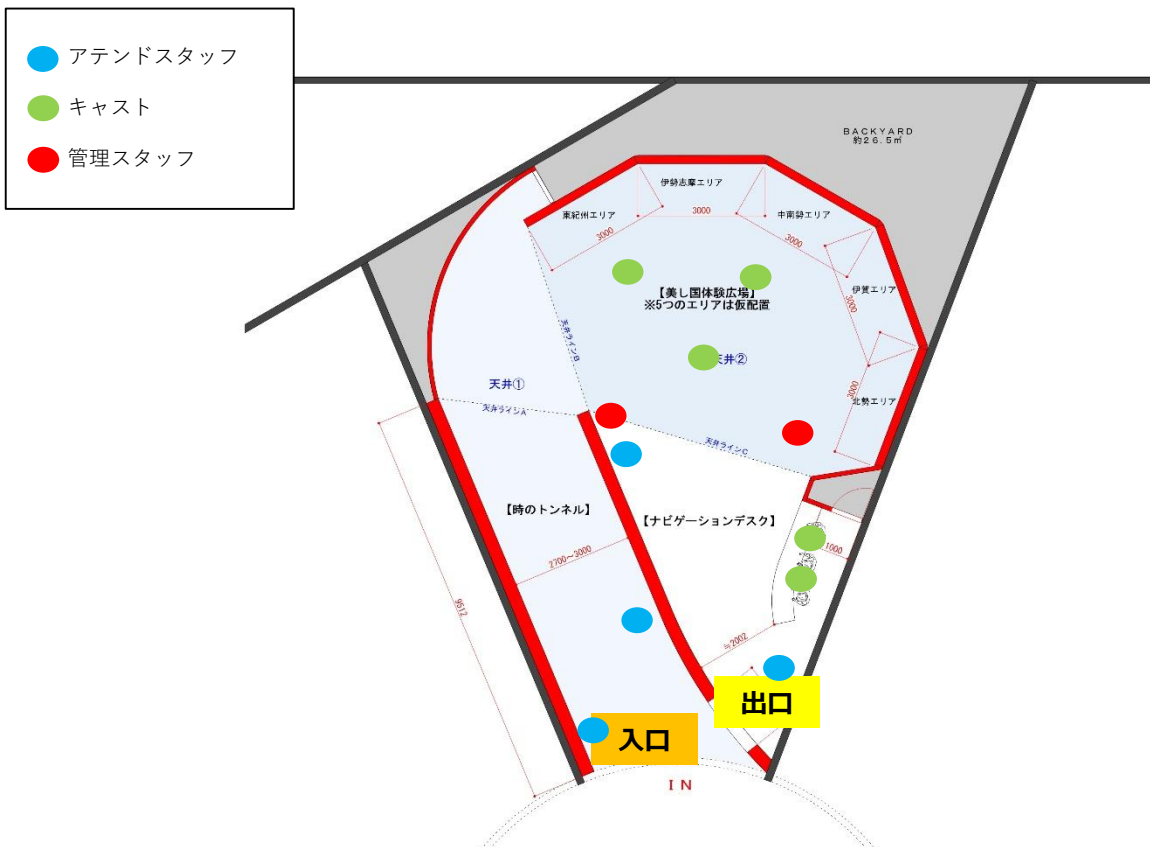
スタッフの募集・採用・研修計画・勤務体系などを整理して取り組んでいくとともに、ボランティアの参加についても検討します。

・リスク対応方針

来場者、スタッフ、関係者の安全・安心を確保するため、リスク対応方針を策定します。

関西パビリオンのルールを遵守しながら、三重県ブースの清掃、衛生管理を行うとともに自然災害や火災、事故、傷病者の発生など緊急事態を想定して、危機対応やリスクマネジメントを行います。

スタッフ配置案 ※変更の可能性あり



●ブースの周知・広報

県政だよりなど既存の広報チャネルを活用して、主に三重県内の機運を醸成します。ソーシャルメディアを活用し、国内のより多くの方に届けられるよう取り組みます。

(3) 万博会場での取組

●WE Bパビリオンの方針と展開

関西広域連合が定めるWE Bパビリオンのレギュレーションに則り、三重県の魅力を伝えるコンテンツを展開し、三重県ブースへの誘導を図ります。

●催事計画

催事は、万博において、会場に賑わいをもたらし、催事が充実することで万博の楽しみに厚みが生まれるものとされています。

このことから、三重県ブースの展示とも連携した催事を利用して三重県の魅力を発信します。

関西パビリオン催事スペース (130㎡程度)

関西パビリオンには、常設の催事スペースが設置される予定であり、参加府県に使用期間が割り当てられることになっています。

三重県ブースとは違う魅力をPRする場として、市町や団体等に参加していただき、地域の魅力を発信していただいたり、実演を行うことで来場者が三重県のことをもっと知りたいと思えるような催事を開催します。

万博会場内催事スペース (5カ所)

万博会場内には、大小含めて多数の催事スペースが設置される予定です。

関西パビリオンの催事スペースよりも広いことから、より多くの来場者に参加していただき、オール三重での観光や食、祭りなどをテーマとしたイベントを展開します。



万博会場内の催事場

提供：2025年日本国際博覧会協会

4. 万博の好機を生かす取組

●観光・プロモーションの方向性

- ・国内外の注目が高い大阪・関西万博において、会期前・会期中・会期後の各段階に応じたプロモーションを展開し、万博の好機を捉えた三重県への誘客・県産品の販路拡大を図るとともに、将来の三重県訪問のきっかけづくりを行います
- ・会期前・会期中・会期後の観光誘客・プロモーション

会期前

2023年のG7三重・伊勢志摩交通大臣閣僚会合、2024年の熊野古道世界遺産登録20周年などの注目度の高いイベントの機会を捉え、交通広告の掲出や、三重テラス及び関西事務所と連携したイベント等の実施を通して、三重県の魅力を発信し、訪問先としての三重県の認知度向上を図ります。

また、交通事業者等とも連携し、県内周遊を促進する企画切符や旅行商品の造成等の検討を進め、万博チケット購入の段階で三重県訪問を検討してもらえるよう、首都圏等において情報発信に取り組みます。

首都圏や関西圏等において三重県フェアを開催し、県産品の販路拡大に取り組むとともに、大阪市内における期間限定の情報発信拠点の設置など実験的な取組を通じて、関西圏における情報発信を強化します。

会期中

関西事務所、三重テラスなどとも連携し、プロモーションを展開します。

万博来場者がチケット購入の段階で三重県訪問を検討してもらえるように、首都圏等において県内周遊を促進する旅行商品等の情報発信に取り組むとともに、三重県ブースで三重の観光コンテンツやその魅力を発信し、ブース来場者が将来三重県を訪問したいと思ってもらえるきっかけづくりを行います。

万博会場において、販売も含めて県産品の魅力発信に取り組みます。

国内外からの来場者が集まる場所などで観光物産展を開催するなど、県産品の販路拡大と情報発信に取り組みます。

会期後

大阪・関西万博での三重県の認知度向上を生かし、リニア中央新幹線東京名古屋間開通や次期式年遷宮などの次の好機を捉え、さらなる誘客につなげるため、引き続き戦略的に首都圏等でのプロモーションを展開していきます。

●レガシーの活用

- ・三重県のプロモーションは、万博への参加がゴールではなく、その先も見据えて取り組みます。
そのため、三重県ブースにおいては展示物を含め、万博後も活用することも想定して計画を立てていきます。
- ・万博で制作する展示物は会期後も三重テラスや県有施設など様々な場所で活用するなど、引き続き活用できるよう取り組みます。

5. 万博関連事業全体の推進

●概算事業費

- ・大阪・関西万博への出展に係る事業費は、大きく以下の3つの費用が必要です。
※資材や人件費などの高騰により見直しが必要になる可能性があります。

- ①関西広域連合への負担金 建築費・運営費・WEBパビリオン：約2億円
外構・内装・関西展示等：関西広域連合で調整中
三重県が参加する関西パビリオンの設置・運営費用に係る負担金であり、原則として展示面積に応じた負担割合となります。
- ②三重県ブース展示費用 約4.6億円 ※令和5年度の設計業務により決定します。
三重県ブースの展示に係る費用であり、展示の製作・設置工事、運営費、解体費用が主な内容です。
展示製作・設置工事：約2.0億円（映像を含む展示の平均的な㎡単価120万円程度）
運営費：約2.0億円（展示製作等と同額程度）
解体費用：約0.2億円（展示製作等の10%）
その他事務費：約0.4億円（基本計画0.13億円、設計費0.24億円、その他）
- ③イベント・その他事業費
万博会場や関西パビリオンの催事スペースにおけるイベントやその他万博に関連した誘客・県産品販路拡大等の取組について検討します。

●全体スケジュール

- ・万博が開催される2025年のさらに先を見据えて、関西圏をはじめ、首都圏等におけるプロモーションの取組を強化するために、関係部局の取組をロードマップとしてとりまとめました。
今後、進捗管理を行うとともに取組のさらなる強化を図ります。

大阪・関西万博を契機としたプロモーションロードマップ

※時期や内容等は例示であり、令和4年11月での想定です。

イベントカレンダー	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027) 以降
県内	太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議 県立美術館開館40周年	G7交通大臣会合 サンパワロ州との姉妹提携50周年	熊野古道世界遺産登録20周年 MieMu開館10周年	山口祭ほか運営関連行事 第44回全国豊かな海づくり大会	三重県政150周年 伊勢志摩国立公園指定80周年	2023年 次期通官(連節) 2027年 リニア東京名古屋間開通 2027年 リニア名古屋大阪間開通 2029年 大阪IR開業
関西圏	大阪・関西万博1000日前	大阪・関西万博500日前	大阪・関西万博100日前	大阪・関西万博(R7.4.13~R7.10.13)		2027年 ワールドマスターズゲームズ 2029年 大阪IR開業
目的別万博関連事業						
関西パビリオン	●出展基本計画の策定	●展示詳細設計の実施 ●運営計画の策定 ●イベント実施検討 ●市町等との出展調整	●展示製作・工事 ●運営・イベント準備 ●市町等との出展調整	●他のパビリオンと連携したプロモーション	●展示の後年度利用	
情報発信	●メディアを活用したプロモーション ●三重テラスを拠点とした首都圏での魅力発信	●SNSや動画を活用した魅力発信 ●海女もん・真珠の情報発信		●万博会場と連携した三重県プロモーション強化		
観光誘客	●企画切符の作成など万博開催の好機を捉えた交通事業者等との連携 ●熊野古道セミナー開催・映像を活用した誘客取組	●滞在型観光に向けた取組 ●観光・体験コンテンツの造成・磨き上げ、コンテンツを組み合わせた周遊ルート構築 ●県内自然公園の魅力発信 ●食・泊・体験を組み合わせた農泊の推進	●インバウンド向け広域周遊ルートの造成と情報発信 ●一人ひとりに合わせた「One to Oneマーケティング」の活用 ●世界遺産登録20周年に向けた熊野古道伊勢路のブランディング	●万博を契機とした国内外から三重県への誘客促進		
販路拡大	●販路拡大に向けた水産物産地応援フェア開催	●ガストロノミーツーリズムの推進 ●SIT(特別な目的地に絞った旅行)のモデル事業の実施 ●「三重ブランド」や「みえセレクション」など、県産品のブランド創出	●万博を契機とした関西圏における情報発信のあり方検討 ●大都市圏における水産物フェアの定期開催や、県産和牛ブランドの輸出拡大に向けた展示会への出展など、サプライチェーンの構築	●万博会場と連携した三重県産品の販路拡大		
ネットワークの充実				●市町、県内事業者、関西ネットワーク等ステークホルダーとの連携強化		

万博を契機に高まった認知度を次の好機へつなぐ

●推進体制

- ・国内外から訪れる来場者に三重県の魅力を発信し、三重県への来訪を促進するために、大阪・関西万博関連事業推進本部を設置して、出展に向けた取組を進めています。
また、県民、県内市町、団体、事業者と連携して、オール三重で取り組めるよう検討を進めます。

